

さわやかさん交流会開く 33人参加 沖縄の小学校の上をへり飛行許せない 中川・ふる入浴券が使用できない!

1月20日(土)東和住区センター会議室で「さわやかさん交流会」が開かれました。「さわやかさん」とは友の会の新聞である「下の健康」「かばら支部ニュース」などを会員さんの自宅に届ける役割を持った会員



さんを指して言います。

この交流会には33人が集まり昼食を囲んで、「折り込み」「配布」などの作業から友の会全般に渡る活動の意見が出されました。最初にあいさつした渡辺支部長は「昨年12月の忘年会の日に会員拡大の月間目標を達成した」ことを報告しました。秦野昭彦区議は「国民健康保険料の値上げをさせない」ために東京都への働きかけ、区議会でのやり取りを話し、とめよう戦争する国、足立東部の会代表の高橋さんは「私の人生は憲法の歩みそのもの」と前置きして「安倍改憲NO! 3千万署名を集める運動」の大切さを訴えました。

この三人の話を受け参加者の自己紹介を兼ねた



発言は「沖縄の小学校の上をへりが飛び、アメリカ軍が飛んでいないと言う嘘は許せない」「憲法9条の改憲反対署名を集めたい」「葛飾区の銭湯でも足立の風呂券が使えるよう運動して行く」など地域の要求も含めて様々な意見が持ち上がりました。

配布の実務に関わる話題としては「新しい会員さんの届け先の地図」を必ず付けて欲しい。「配布部数より少なくもらう時があるが正確に降ろして」などの要望も出されました。また、さわやかさんの中には体調不良で、配れなくなる人が出る一方、新たに配布を引き受けてくれる人も現れているので、「さわやかさんを増やす活動をこれから進める」と言う提案も出されました。

また、2月・3月の友の会の行事である「新春の集い」「バスハイク・いちご狩り」へのお誘いの話も担当役員さんからありました。

終わりごろに蒲原診療所の若松事務長から常日頃の活動への感謝が述べられ、交流会を終わりました。
報告 支部役員会

エコステンドグラス

かばらデイサービスセンター
施設長 小澤 孝博

倉庫の掃除をするとお宝発見! 10年以上前にももらったと思われる黒い厚紙が大量に出てきました。黒色を生かし出来る作品はと職員一同で考え「ステンドグラス」と思いつき製作を開始!

切り抜いた所にサララップに色を塗った物を貼る予定でしたが、切り抜いた日に近所の方が「これ使うならどうぞ」と色付きのレジ袋をたくさん持ってきて下さいました。なんと偶然でしようか? 早速使わせて頂く事にし、最初は簡単な作品でしたが、利用者さんの技術と意欲が向上し

複雑な絵柄にも取り組める様になりました。そこで、かばらデイサービスセンターが15周年を迎える年に、記念に残る作品をと思い立ち今回の作品に取り組む事になったのです。そして、見事な作品が出来上がり自分達だけでなく多くの方に見てもらいたくなりました。ちようど法人のすこやか福祉会作品展覧会があり、そこに応募する事にしたのです。

なんと、その結果は特養・デイサービス等の多くの団体のなかで、団体部門最優秀賞を受賞する事ができたのです。授賞式には、利用者さん代表と一緒に笑顔で賞状授与してきました。

そこで今度は、最優秀賞を受賞した事を報告したくなり、1階診療所入り口に貼りださせて頂きました。

また、いたずら心で作品のなかに「かばら」から取って「かば」と「ばら」を入れていきます。よく見て探して見てください。



すみれ班報告

48年に一度の寒さをすいとん鍋で温まる 高騰の野菜から政治の話から 行き着くところは葬式の話

東和地域の会員さんを中心とした「すみれ班」は、ほぼ毎月、班会を開き会員さんが集まりを持っていきます。1月の集まりは1月25日（木）でした。

早めに会場の金子さん宅に着いた人で「スイトン」の準備に取りかかりました。昼食代わりに鍋を突っついて班会を進めようと考えた様です。いつもは10人近い人が集まりますが、この日は6人でした。急な寒さでカゼ引きや体調を崩した常連さんが出たためです。この日の朝は48年ぶりの冷え込み。鍋の準備をしながら「バケツに張った氷が取れなくなつた」「手が痛くなるほど冷たい」「凍死者が出て気の毒」など寒波の話題が続きます。



べ、抹茶を楽しみました。食べながらも一時も話が止まることはありません。趣味の「釣りの話」から「野菜が高値で買えない話」政治家が話したことなどが次々に登場します。「不用品の整理」これを業者に頼むと負担するお金が大変。そして「葬式の話」に行き付いてまた、堂々巡りのようですがおしゃべりが弾みます。これも健康だからできること。そのことを喜び合いながら毎回、班会を楽しみにしていることが良く分かりました。

報告 嶺岸 宏

あじさい班の報告

炬燵が友だちに！ 大笑い お酒も入り自然に歌声が！！

東京に積雪があつた2日後、1月24日（水）にあじさい班で集まりを持ちました。この日は18人が参加し、弁当と持ち寄つた料理を食べながら、お互いに近況報告をし合

いきました。ギックリ腰になつたKさんは「最近、お友達ができたの」と切り出しました。話を聞いていたみんなが「どんな友達」と聞き耳を立てると「こたつ、温かい炬燵よ」と言うので会場内は大笑いになりました。

今回の集まりは新年会という事で焼酎やワインも用意しました。飲むほどに会場は盛り上がり手作りの歌集が配られ、自然に歌う会の様相になって来ました。「青い山脈」なども伴奏なしで歌いました。何曲かみんなが歌いましたが、大きな歌声が響き合う班会での歌も良いものだと思います。

今、友の会として取り組んでいる署名（「国民健康保険をこれ以上値上げしないで」「9条改憲NO!」）の説明を受け、署名してもらつた用紙は取りに行きますと訴えました。この訴えの数日後、参加した会員から班会の世話役に署名用紙が届けられました。ご協力ありがとうございました。

次回の班会は、食事の準備ができるようになる「人が困っている時は少しでも出来ることをしてやる」事を母から学んで行く。北海道では多喜二は銀行員になつていて、生活は裕福だったのを一人の女性（実は売春婦）を知り銀行をやめ東京へ行き小説を書き始める。この事に母はだまって多喜二を見守る。



報告 美濃 哲夫

映画「母」を観ての感想 （小林多喜二の母の物語）

小林多喜二がごく一般的な母によって育てられその中から社会の中に矛盾があることを感じていく。多喜二が子供のとき「タコ部屋」かた逃げ込んできた労働者（朝鮮人）をかくまい人の姿が見えなくなつてパンをあげて逃がす。これを多喜二は見ていて「人を差別し

ついに警察につかまり一夜の内に拷問に合い殺されてしまう。母がつぶやく「わだしは小説を書くことが、あんなにおつかねえことだと思つてもみなかつた、あの多喜二が小説を書いて殺されるなんて。

報告 小川 務

祝 会員拡大目標超過達成！